



幼いころの本の記憶



fufflle

本を自らすすんで読んだ記憶は数少ない。

と言うか、幼いころからあまり本を読みたがらない子供だったらしい。母曰く、物心つく前は本を読ませようとしてもビリビリビリビリ〜っと本のページをどんどん破いちゃったそう。落ち着かないというかなんというか...

しかし、そんな幼かった頃、大好きで読んでいた数少ない絵本は「ノンタン」シリーズの絵本だった。

絵本の読み聞かせをする時は、ページを飛ばそうとしたらページを戻して最初から最後まで読ませようとしていた、らしい。私ももうその頃は全く覚えてない、母は四半世紀以上前の出来事なのによく覚えてるなあ、なんて思わず感心してしまった。

でも、なんでノンタンだったのだろう。幼いころから読める絵本は他にもいっぱいあるのに。おそらくノンタンとの出会いは偶然だったのかもしれない。でも、なんでノンタンだったのだろうか...いろいろと考えを巡らせてみた結果、答えは簡単だった。ノンタンは読んでいて楽しいんだもん。リズム感あふれる言葉づかいといい、シンプルでかわいい絵といい、幼少期の私の心を掴んで離さない要素が小さな絵本の中に溢れていたのだ。

そんな幼少期のおぼろげな記憶から10年近くたった頃、伝説の子供番組「ウゴウゴルーガ」でノンタンがアニメ化され、埋もれかけていた幼いころの記憶が蘇った。「ウゴウゴルーガ」が放送されていたのは私が小学校高学年の頃だったが、その時ノンタンの声をやっていたのはまだデビューしたての千秋だった。千秋もその頃からイメージが全然ぶれてないなあ...あ、ちょっと話が横道にそれてしまうなあ。

しかし、その時に私の中でやっぱりノンタンが好き！って言う思いがより強くなったのは言うまでもない。

そんな私も歳を重ね、子供がいてもおかしくない年頃になった。

もし自分に子供が産まれたら、どんな絵本を読ませようかな...なんて思うようになった。

もちろんノンタン以外にもたくさんの好きな絵本があるのだが、でも産まれたばかりの頃に読ませるんだったらやっぱり「ノンタン」シリーズを読ませたいと本気で考えている。